

元祖再始動！新世代発進！
GSユアサの
電池で走る。

1917 MODEL
当社所有の電気自動車
「デトロイト号」

2008 実証試験中
三菱自動車が開発中の
新世代電気自動車「MIEV」

GS YUASA
Next to you

GS YUASA

2010年3月期第2四半期
決算説明会

GS Yuasa Corporation
2009年11月27日

目次

I. 2010年3月期第2四半期決算(連結)

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2010年3月期業績見通し(連結)

1. 下期業績見通し
2. 事業セグメント別下期課題
3. 通期業績見通し

III. リチウムイオン電池事業の動向

1. 決算の概要

ハイライト

経営環境

経営環境は依然として厳しい状況

一部で景気持ち直しの動きがみられるものの、設備投資の減少や個人消費の低迷などで本格的な景気回復には至らず。

業績の概要

第1四半期は、国内の景気低迷に伴う販売数量の急激な落ち込みに見舞われ、大きく営業損失となった。第2四半期は、国内産業用電池電源分野を中心に受注回復に加え、中国、東南アジアを中心とする海外が堅調に推移した結果、営業損益は大きく好転した。

しかし、大口取り引き先に対する売上債権の貸倒れが発生したこともあり第2四半期の営業利益は若干の赤字となった。

I 1. 決算の概要

業績

(億円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額
売上高	1,444	1,094	-350
営業利益	65	-1	-66
経常利益	68	0	-68
特別利益	2	1	-1
特別損失	26	4	-22
税前純利益	44	-2	-46
法人税等	19	15	-4
純利益	25	-17	-42



5

I 1. 決算の概要

利益の増減

(億円)

	2008年度上期	2009年度上期	増減額
経常利益	68	0	-68

- ・ 数量の減少により大幅な減益
- ・ 鉛価格下落と売価ダウンは粗見合い
- ・ 売上債権の貸倒れを合理化・経費削減等でカバー

	2008年度上期	2009年度上期	増減額
純利益	25	-17	-42

- ・ 特別損失の減少
- ・ 法人税等の減少

+26



6

目次

I. 2010年3月期第2四半期決算(連結)

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2010年3月期業績見通し(連結)

1. 下期業績見通し
2. 事業セグメント別下期課題
3. 通期業績見通し

III. リチウムイオン電池事業の動向



7

I 1. 決算の概要

セグメント別業績

(億円)

	国内自動車 電池	国内産業用 電池電源	海外	照明	その他	消去又は 全社	合 計
- 売 上 高 -							
2008年度 上期①	338	297	679	45	85	—	1,444
2009年度 上期②	259	226	492	27	89	—	1,094
増減額 ②-①	-79	-71	-187	-18	4	—	-350
- 営 業 利 益 -							
2008年度 上期①	7	30	33	1	3	-9	65
2009年度 上期②	-5	-4	31	-8	-6	-9	-1
増減額 ②-①	-12	-34	-2	-9	-9	0	-66



8

I 1. 決算の概要

四半期別業績

(億円)

		Q1	Q2	Q3	Q4	通期
2009年度	売上高	489	604			
	営業利益	-22	22			
2008年度	売上高	696	749	724	666	2,834
	営業利益	23	42	35	42	143
2007年度	売上高	600	740	836	862	3,037
	営業利益	-15	6	46	82	119



9

I 2. 事業セグメント別業績



国内自動車電池事業

(億円)

		売上高	営業利益
2008年度上期	338	7	
2009年度上期	259	-5	
増減(09-08年度)	-79	-12	

	1Q	2Q
08年度	-5	12
09年度	-5	0
09-08年度	0	-12

- 新車用電池の販売数量は大幅減少
- 補修用電池は前期水準を維持

主な増減益要因

- ・ 数量の減少 -17
- ・ 鉛コストの変化 16
- ・ 売価のダウン -30
- ・ 合理化、経費削減等 19



10

I 2. 事業セグメント別業績

産業電池電源
セグメント

国内産業電池電源事業

(億円)

	売上高	営業利益
2008年度上期	297	30
2009年度上期	226	-4
増減(09-08年度)	-71	-34

	1Q	2Q
08年度	8	22
09年度	-13	9
09-08年度	-21	-13

- ・電源装置・据置用電池などは、第1四半期の急激な落ち込みから、第2四半期は回復基調
- ・フォークリフト用電池は、依然厳しい状況が継続

主な増減益要因

- ・数量の減少 -29
- ・鉛コストの変化 8
- ・売価のダウン -8
- ・貸倒引当金の増加 -8
- ・合理化、経費削減等 3

GSYUASA

11

I 2. 事業セグメント別業績

海外
セグメント

海外事業

(億円)

	売上高	営業利益
2008年度上期	679	33
2009年度上期	492	31
増減(09-08年度)	-187	-2

	1Q	2Q
08年度	22	11
09年度	11	20
09-08年度	-11	9

- ・中国、東南アジアの景気回復を中心に前期並みの数量を確保

主な増減益要因

- ・鉛コストの変化 100
- ・売価のダウン -102

GSYUASA

12

目次

I. 2010年3月期第2四半期決算(連結)

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2010年3月期業績見通し(連結)

1. 下期業績見通し
2. 事業セグメント別下期課題
3. 通期業績見通し

III. リチウムイオン電池事業の動向



13

I 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

資産・負債・純資産

(億円)

	09/3末	09/9末	増減額		09/3末	09/9末	増減額
流動資産	1,173	1,139	-34	負債	1,475	1,133	-342
・ 現預金の減少			-23	・ 借入金の減少			-299
・ 売上債権の減少			-67	・ 仕入債務の減少			-13
・ 棚卸資産の減少			-24	・ 未払金の減少			-36
固定資産	963	1,030	67	純資産	660	1,038	378
・ 有形固定資産の増加			37	・ 増資			330
・ 投資有価証券の時価評価			19	・ 純損失および株主配当			-38
・ 持分法投資利益の増加			9	・ 評価差額および少数株主持分			85
総資産	2,136	2,171	35	総資産	2,136	2,171	35

・ 売上債権、棚卸資産は減少したが、リチウムイオン電池事業への投資などにより総資産は増加



14

I 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

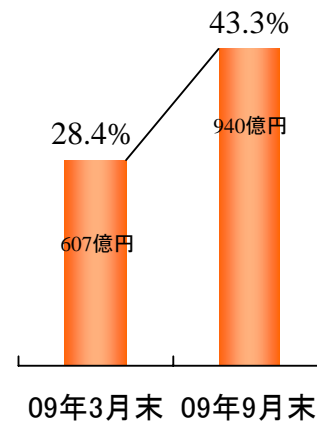
新株発行による増資の実施

・公募増資の概要

	公募増資
決議日	2009年7月13日
発行株式 千株	46,000
募集価格 円/株	750
払込金額 億円	330

※オーバーアロットメントを含む

・自己資本比率の改善

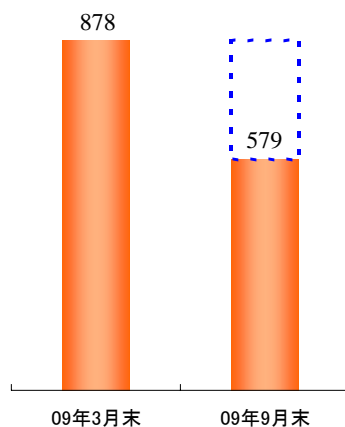


15

I 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

有利子負債

(億円)



	09年3月末	09年9月末	増減額
短期借入	585	280	-305
長期借入	293	299	6
合計	878	579	-299

増減要因

・営業C/F	80
・投資C/Fへの充当	-50
・増資資金	330
・現預金の減少	23
・有価証券の増加	-75
・その他	-9
減少額合計	299億円

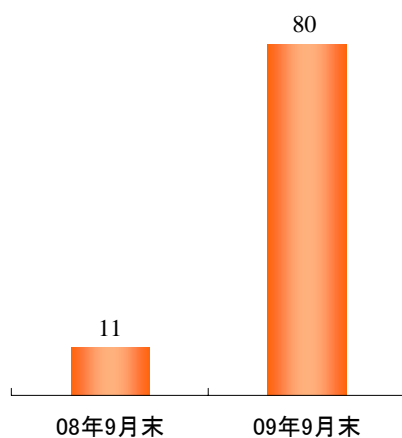


16

I 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

営業キャッシュフロー

(億円)



主な内訳

・ 経常利益	0
・ 減価償却費	45
・ 運転資金の減少 (売上債権、棚卸資産、仕入債務)	82
・ 持分法損益	-9
・ 法人税等の支払額	-18

- ・ 業績は悪化したものの、運転資金の圧縮により営業C/Fは大幅改善
- ・ 債務償還年数：3.6年(年換算)

目次

I. 2010年3月期第2四半期決算(連結)

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2010年3月期業績見通し(連結)

1. 下期業績見通し
2. 事業セグメント別下期課題
3. 通期業績見通し

III. リチウムイオン電池事業の動向

II 1. 下期業績見通し

ハイライト

経営環境

新興国と環境分野が世界経済を牽引

先進国では自動車生産台数、設備投資とも底を打ち、回復の兆候はあるものの依然先行き不透明であるが、中国・インドなど新興国は景気回復から成長への躍進が期待される。

また、世界的に環境社会への転換が迫られ、環境関連事業への期待が高まる。

下期見通しの概要

成長分野への積極展開により前下期水準の利益を目指す

国内事業は環境対応型製品を軸に安定的な収益を確保する。

海外事業は新興国を中心に攻めに転じ収益拡大を狙う。

II 1. 下期業績見通し

鉛価格・為替の変動による影響

鉛価格:

鉛価格変動に合わせた
売価設定の仕組み

- 新車用電池は鉛スライド制による売価変動システム(3~6ヶ月単位)
- 補修用電池は市場環境を勘案して適時売価改定
- 個別受注の産業分野は鉛価格を考慮した売価設定

国内(国内建値)

単位:千円/t

08/4~08/9 : 266

09/4~09/9 : 212

下期計画 : 220

海外(LME相場)

単位:US\$/t

08/1~08/6 : 2,603

09/1~09/6 : 1,328

下期計画 : 1,800

為替:

為替変動の影響を受け
難しい事業構造

- 海外事業は現地生産・現地販売が中心
- 日本からの輸出は僅少

TTM平均

単位:円/US\$

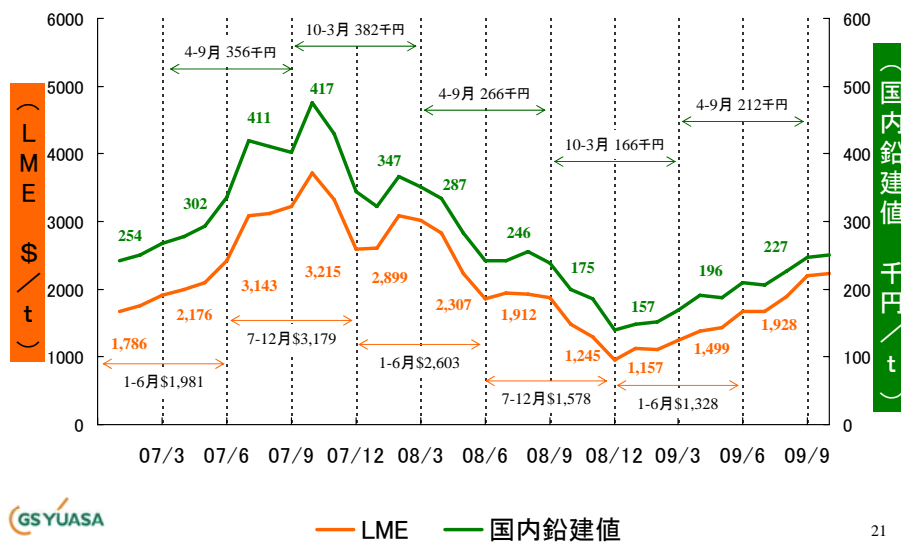
08/1~08/6 : 104.61

09/1~09/6 : 95.98

下期計画 : 93.00

Ⅱ 1. 下期業績見通し

鉛相場の変動



GSYUASA

— LME — 国内鉛建値

21

Ⅱ 1. 下期業績見通し

まとめ

(億円)

	2008年度 (下期実績)	2009年度 (下期見通し)	増減額
売上高	1,390	1,306	-84
営業利益	77	71	-6
経常利益	42	50	8
純利益	17	42	25

GSYUASA

22

目次

I. 2010年3月期第2四半期決算(連結)

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2010年3月期業績見通し(連結)

1. 下期業績見通し
2. 事業セグメント別下期課題
3. 通期業績見通し

III. リチウムイオン電池事業の動向



23

II 2. 事業セグメント別

まとめ 下期比較

(億円)

	国内自動車 電池	国内産業用 電池電源	海外	照明	その他	消去又は 全社	合 計
- 売 上 高 -							
2008年度 下期①	334	358	583	44	70	—	1,390
2009年度 下期②	321	324	508	53	101	—	1,306
増減額 ②-①	-13	-34	-75	9	31	—	-84
- 営 業 利 益 -							
2008年度 下期①	8	69	18	-1	-9	-8	77
2009年度 下期②	5	54	29	0	-9	-8	71
増減額 ②-①	-3	-15	11	1	0	0	-6



24

Ⅱ 2. 事業セグメント別下期課題

自動車
セグメント



国内自動車電池事業

(億円)

	売上高	営業利益
2008年度下期	334	8
2009年度下期	321	5
増減(09-08年度)	-13	-3



事業環境の見通し

- 新車用電池は、環境対応車の牽引により新車生産が回復基調
- 補修用電池は、上期に引続き総需要は堅調に推移

重要課題

- 環境対応車向け電池の拡大
 - HEV、充電制御車、アイドリング・ストップ車専用鉛電池の販売拡大
- 総コストの改善
 - 需要に見合った生産体制の最適化
 - 生産の効率化、合理化、経費削減の強化



25

Ⅱ 2. 事業セグメント別下期課題

産業電池電源
セグメント



国内産業電池電源事業

(億円)

	売上高	営業利益
2008年度下期	358	69
2009年度下期	324	54
増減(09-08年度)	-34	-15



事業環境の見通し

- 景気後退は底をつき、経済動向がやや上向く
- 新政府は、温暖化効果ガス削減および太陽光発電等の推進を強化する方針

重要課題

- 顧客ニーズに対応したきめ細かい営業活動
- 太陽光発電システムなど、新エネルギー分野での販売拡大



26

II 2. 事業セグメント別下期課題



海外事業

(億円)

	売上高	営業利益
2008年度下期	583	18
2009年度下期	508	29
増減(09-08年度)	-75	11



事業環境の見通し

- アジアを中心に景気回復が堅調に推移し、特に中国・インドにおける自動車産業の成長は顕著
- 日米欧だけでなく、中国も含む地球温暖化等環境意識の高まりにより、産業用部門での需要も拡大

重要課題

- 中国、インド、東南アジアにおける自動車新車用、補修用の顧客ニーズに対応し販売を拡大
- 産業用電池事業の販売拡大



27

目次

I. 2010年3月期第2四半期決算(連結)

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2010年3月期業績見通し(連結)

1. 下期業績見通し
2. 事業セグメント別下期課題
3. 通期業績見通し

III. リチウムイオン電池事業の動向



28

II 3. 通期業績見通し

まとめ

(億円)

	2008年度 (実績)	2009年度 (見通し)	増減額
売上高	2,834	2,400	-434
営業利益	143	70	-73
経常利益	110	50	-60
純利益	42	25	-17
純利益/株	11.52円	6.29円	-5.23円
配当/株	6円	5円	-1円



29

II 2. 事業セグメント別

まとめ 前年比較(通期)

(億円)

	国内自動車 電池	国内産業用 電池電源	海外	照明	その他	消去又は 全社	合 計
- 売 上 高 -							
2008年度 ①	672	656	1,262	89	155	0	2,834
2009年度 ②	580	550	1,000	80	190	0	2,400
増減額 ②-①	-92	-106	-262	-9	35	0	-434
- 営 業 利 益 -							
2008年度 ①	16	99	51	0	-6	-17	143
2009年度 ②	0	50	60	-8	-15	-17	70
増減額 ②-①	-16	-49	9	-8	-9	0	-73



30

目次

I. 2010年3月期第2四半期決算(連結)

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2010年3月期業績見通し(連結)

1. 下期業績見通し
2. 事業セグメント別下期課題
3. 通期業績見通し

III. リチウムイオン電池事業の動向

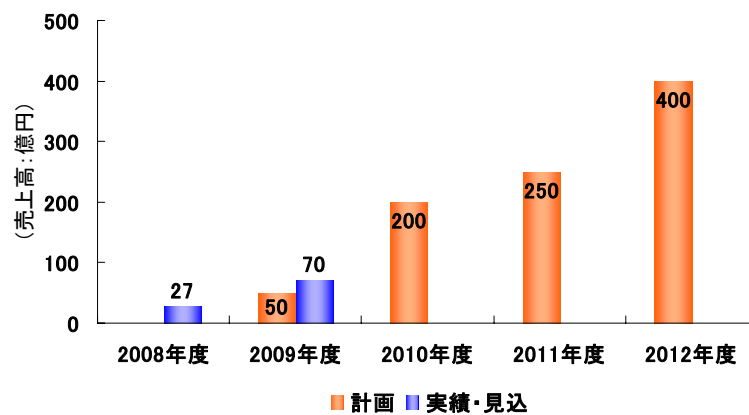


31

III. リチウムイオン電池事業の動向



事業計画



32

Ⅲ. リチウムイオン電池事業の動向

その他
セグメント



自動車用分野

- EV用リチウムイオン電池事業 / (株)リチウムエナジー ジャパン

- 2009年度上期の販売実績は13MWh、通期見込みは30MWh
- 草津事業所の増設ラインは2010年春から稼動
(40MWh→120MWh)
- 京都事業所の増設ラインは2011年春から稼動(200MWh)



- HEV用リチウムイオン電池事業 / (株)ブルーエナジー

- ブルーエナジー社新工場建屋が
本年末に完成予定
- 来年度秋の操業開始にむけて
計画通り進捗
- 2012年度 生産能力 200MWh



㈱ブルーエナジー 新工場(京都府福知山市)

33



Ⅲ. リチウムイオン電池事業の動向

その他
セグメント



産業用分野

- 電池と電気のハイブリッド鉄道車両に搭載

- 非電化区間の走行が可能
- 回生エネルギーを効率よく回収し再利用

電池の発熱を効率的に排出
するために、冷却風を送り込
む強制冷却式を採用し、大電
流充放電を可能とした



産業用リチウムイオン電池

用途例



Hi-tram(ハイトラム)/
財団法人鉄道総合技術研究所



NE Train スマート電池君 / JR東日本

34

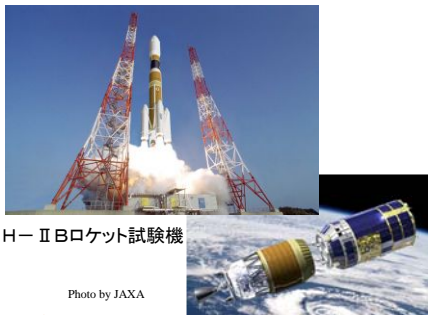


Ⅲ. リチウムイオン電池事業の動向

その他
セグメント

宇宙・航空分野

「H-II Bロケット試験機」と、ロケットに搭載されている「HTV技術実証機」に高性能(軽量・高容量)リチウムイオン電池が搭載



H-II Bロケット試験機

Photo by JAXA



HTV技術実証機

アメリカ航空宇宙局(NASA)が2012年に打上げを計画している「バンアレン帯観測衛星」に、当社の高性能リチウムイオン電池の採用が決定



人工衛星用
大型リチウムイオン電池 35

GSユアサのコーポレートスローガン

Next to you

エネルギー、環境社会での技術革新が進むなか、
電池技術を通じて社会のニーズに応え、企業価値
の最大化を追求します。



36

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
広報室 山本 靖志 ・ 谷川 浩一
Tel : 075-312-1214
<http://www.gs-yuasa.com/jp>